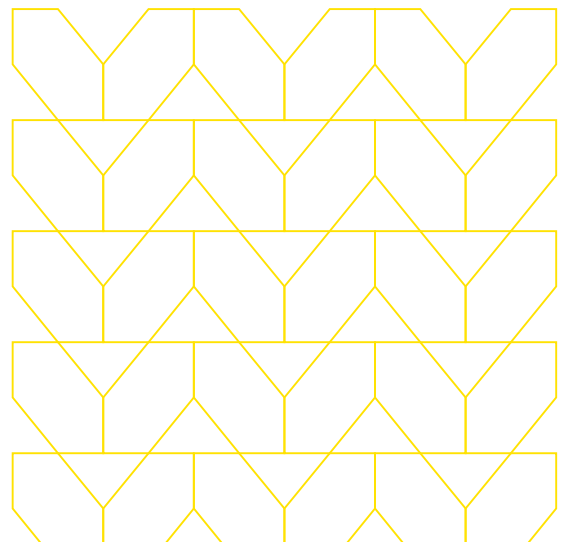
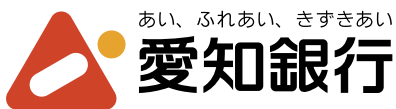




Case Study

株式会社愛知銀行

ユーザーの使い勝手を変えず
金融機関に求められるセキュリティを担保
SaaSを活用した銀行業務を実現し効率もアップ



User Profile

株式会社愛知銀行

本社所在地：〒460-8678 愛知県名古屋市中区栄 3-14-12

導入時期： 2022年2月

URL： <https://www.aichibank.co.jp/>



(左から) 株式会社愛知銀行 事務統括部 システム企画グループ 調査役
永松 秀一 氏

株式会社愛知銀行 事務統括部 システム企画グループ グループリーダー
長尾 和治 氏

あらゆるモノがつながる社会に向け 「閉域」前提のシステムを見直し セキュリティと利便性の両立を目指す

今、金融業界は大きな変化にさらされています。愛知銀行もそうした波を捉え、地域社会の繁栄に貢献するという理念を大切にしながら、デジタル技術を生かしたサービスやアプリなどを展開し、2020年には日本で最も貸出残高を伸ばした地方銀行となりました。そして2022年には中京銀行と統合して「あいちフィナンシャルグループ」を発足し、中京地区で最大の地銀グループとしてさらなる地域への貢献を目指しています。

お客様の大切な資産を預かる金融機関にとってセキュリティは何よりも優先すべき事柄です。経営層を含め会社全体で「セキュリティ第一」を認識しており、人やプロセス面での対策を進めるほか、他業種に比べても一段高いシステム面でのセキュリティに取り組んできました。

その施策の一つが「閉域網」を前提とした運用です。業務用のシステムとは別にインターネット接続専用の端末を支店や部署ごとに用意し、情報収集などが必要な時のみに利用するといった具合に、物理的にネットワークを完全に分離した形で運用してきました。

一方、この数年で社会全体のデジタル化は猛烈な勢いで進んでいます。「つながることが前提」の社会に適応し、より便利なサービスをスピーディに提供していくには、やはりインターネットへ自由に接続できる環境が必要だというニーズが生まれてきました。「銀行の中からも、SaaSやクラウドサービスを使いたいという声が高まってきました」と、愛知銀行 事務統括部 システム企画グループ 調査役 永松秀一氏は言います。



株式会社愛知銀行
事務統括部 システム企画グループ グループリーダー
長尾 和治氏

セキュリティをユーザーに意識させず 負担をかけない仕組みを検討

こうした背景から「閉域網の文化でシステムを運用し、インターネットなど外部とつながるのは専用端末に限るという流れでずっと来ていましたが、いよいよ分岐点を迎えました」と、愛知銀行 事務統括部 システム企画グループ グループリーダー 長尾和治氏は話します。

とはいえ、ウイルス感染や情報漏えいなどのリスクは抑えなくてはなりません。一番シンプルな方法は、これまでどおり分離した環境を維持しつつ、インターネット接続用の端末の台数を増やすことで

導入のポイント

- 金融機関に求められるセキュリティを担保
- SaaSとして提供されるため、スピーディかつスムーズな導入が可能
- フィルタリングなど、既存の入口対策の運用負荷を軽減

す。しかし、設置スペースや回線コストを考えると難しいと判断し、何らかの技術を取り入れてリスクを最小化しながら、行員が手元の端末からインターネットに接続できる環境を模索し始めました。

論理的に分離した環境を実現する方法はいくつかありました。まず検討したのは、クライアントOSそのものを仮想化して利用する「シンクライアント方式 (VDI方式)」ですが、コストの面から現実的ではないと判断しました。

次に浮上した選択肢は「アプリケーション分離」です。最も有力な方法と考えていましたが、ファイルサーバなどを介してファイルを受受することもあるため、リスクを許容範囲内に抑えきれません。結局、インターネットに接続する端末だけでなく全端末への導入が必要となることがネックとなりました。

最後に浮上したのがMenlo Securityのブラウザアイソレーション技術でした。

愛知銀行ではインターネット接続環境の整備にあたって、さまざまなリスクを抑えられることと同時に、使い勝手を極力これまでと変えず、従業員に負担をかけずに使える仕組みであることを重視していました。Menlo Securityの場合、裏側ではSaaS上の仮想ブラウザを経由していても、使う側は環境が変わったことを意識せずに利用できるユーザーフレンドリーな仕組みであること、さらにSaaS形式で提供されるため導入が容易なことなどを評価しました。

「当初は、スタティックなWebページはともかく、スクリプトなどを用いた動的なページは正常に閲覧できないのではないか、また国内のサイトにきちんと対応できるのかという懸念がありました。しかし、いざ試してみたら全く問題なく、『最初からMenloでよかった』という感覚でした」(永松氏)

安全性を確保しつつシームレスに高い密度で業務が行える環境を構築

愛知銀行では、行内で利用する約1500台の業務端末に加え、外回りの営業用に用意した600台のタブレット端末など2000台を対象にMenloのソリューションを導入しました。他のソリューションを検討した後にMenloの導入を決めたため、決して余裕のあるスケジュールとは言えませんが、パートナーの支援を得ながらス



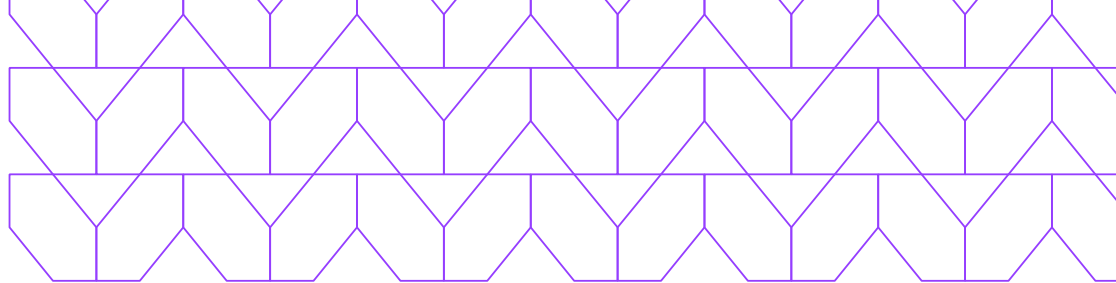
株式会社愛知銀行
事務統括部 システム企画グループ 調査役
永松 秀一 氏

ムーズに導入を完了できました。

以前は各店舗に1台ずつあったインターネット接続用の端末を数人、十数人の行員がシェアしていたため、やむを得ず待ち時間が発生することもありました。「これまでは、業務用PCで作業した後にインターネット用端末に移動し、メールを確認してまた戻って……と、何回も専用端末を行き来していました。ですが、Menlo Security導入後は全員がインターネットに接続できる世界になり、業務がシームレスに、高い密度でできるようになりました」と永松氏は評価しています。

また、外回りの営業活動で利用するタブレットでもブラウザアイソレーションの仕組みが働いているため、「セキュリティを保ちつつ、お客様に説明しながらその場でインターネット上の情報を紹介したりと、SaaSを活用できているという歓迎の声をもらっています」(長尾氏)

検討時から重視していた使い勝手についても問題なく、Microsoft 365やHenнгеといったSaaSサービスを活用できています。インターネットが当たり前の環境となって積極的にメールが飛び交うようになり、「もっと回線を強化してほしい」という声が上がるといいます。以前はちょっとした調べ物のために私用端末を使ってしまう場面も皆無ではありませんでしたが、そういったシャ



ドーITのリスクも減らすことができました。

永松氏は「行員が普通のパソコンと同じ感覚で新たなSaaSを試そうとしたところ、ブラウザアイソレーションのためにアップロードなど特定の操作ができず、我々に相談してくることもあります。これなどは、Menlo Securityを使っていることを意識せずに運用できているがゆえの悩みかもしれません」と述べています。こうした要望を踏まえ、SaaS導入までのルールや申請方法については、Menloの環境で動作することを検証してから導入するプロセスとなるよう現在整備しています。

加えて、運用負荷の軽減も実現できました。以前はフィルタリングソフトを導入し、業務に無関係なWebサイトへのアクセスを制限していましたが、ブロックすべきサイトのリストのメンテナンスや、すり抜けてアクセスしてしまった端末に対する影響確認といった作業が発生していました。こうした一連の作業もMenlo Securityの導入によって不要になりました。「脅威に接するフロント部分のセキュリティを守れるようになったため、いわゆる入口対策の比重を減らすことができ、ファイアウォールやフィルタリングの管理工数が下がりました」(永松氏)

もう一つ、予想外の効果も生まれました。Menlo Securityの導入に向けた検討と説明を進める中、システム担当役員がセキュリティへの関心を一層高め、自発的にITリテラシー強化に励むようになったそうです。経営層も含め、セキュリティに対する関心やITリテラシー

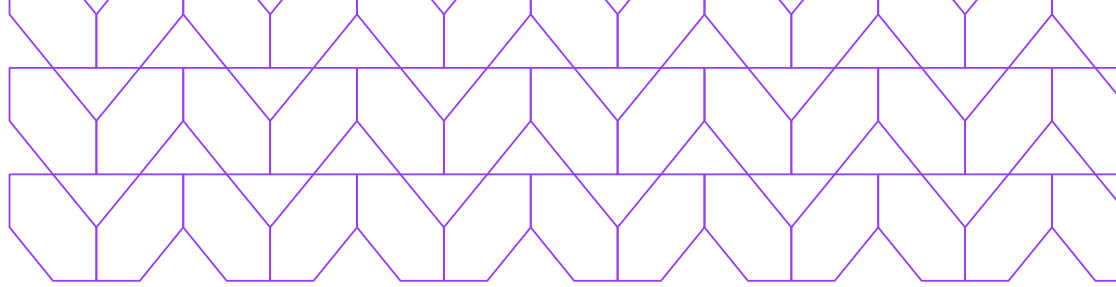
を一段と底上げする契機になったといえるでしょう。

境界防御とゼロトラストを組み合わせ よりセキュアで自由に業務が行える環境を追求

永松氏は「Menloの導入によって、インターネットへの接続という、銀行にとって大きなブレイクスルーが起きました。コストに比して大きな効果が得られたと思っています」と述べ、評価しています。

金融業界だけでなく多くの企業で、新型コロナウイルスの影響や社会環境の変化も踏まえ、オンプレミス環境にとらわれることなく、場所を問わず自由に業務が行えるデジタルワークプレイスの実現が求められています。その一環として今後、ブラウザアイソレーション以外のMenlo Securityのソリューションも、生かしていきたいと考えているそうです。具体的には、CASBやSWGといったさまざまな機能を活用し、SASEを中心にゼロトラストセキュリティに近づけていく計画です。

「重要な資産やシステムは引き続き境界防御で守りつつ、全体をゼロトラストの世界観で守っていこうと考えています。コロナが収まり、モバイルワークやテレワークが縮小するという見方もありますが、『どこにいても同じように仕事がしたい』とリクエストされたときにいつでもできるようにしておこうと考えています」と永松氏は述べ、金融機関として守るべきセキュリティを維持しながら、自由な世界を広げていく考えを示しています。



お問い合わせ
www.menlosecurity.jp
japan@menlosecurity.com



Menlo Securityについて

メンロ・セキュリティは、他に類を見ないアイソレーションを活用したクラウドセキュリティプラットフォームにより、企業が脅威を排除し、生産性を完全に維持することを可能にします。メンロ・セキュリティは、悪意のある攻撃を防ぐために最も安全なゼロトラストアプローチを提供し、エンドユーザーはセキュリティの存在を気にせずにオンラインで仕事をすることができ、さらにセキュリティチームの運用負担を軽減することで、クラウドセキュリティの目標を実現できる唯一のソリューションとなっています。これにより企業は安全なオンライン体験を提供することができ、ユーザーは安心して業務を行いビジネスを進めることができます。